

株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード：4570



代表取締役社長 清藤 勉

2021年11月30日（火）



2022年3月期（第40期）

第2四半期連結決算

【連結】

(金額:千円)

	2021年3月期 第2四半期 (39期)	2022年3月期 第2四半期 (40期)	前期差
売上高	247,962	253,993	+6,031
営業利益	△177,491	△136,520	+40,970
経常利益	△227,918	注 △188,170	+39,747
親会社株主に帰属 する当期純利益	△230,595	△199,333	+31,262

注)持分法投資損失

2022年3月期 57百万円計上(2021年3月期 49百万円)

【セグメント別】

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
抗体関連事業	244,062	△609	△0.2	△79,350	△8,242	—
診断試薬サービス	201,608	△685	△0.3	△24,458	△5,028	—
検査サービス	27,469	+2,668	10.8	△25,140	+877	—
TGカイクサービス	14,983	△2,591	△14.7	△29,751	△4,090	—
遺伝子組換えカイク開発事業	—	—	—	△52,616	+44,319	—
化粧品関連事業	9,931	+6,640	201.8	△5,033	+4,892	—

注) 当第2四半期より報告セグメントの区分を変更しております
(2021年5月14日公表「報告セグメントの変更に関するお知らせ」をご参照ください。)

【抗体関連事業】 診断試薬サービス

(売上高)

主力製品であるEIAキット・抗体・・・売上増

⇒海外市場の回復が顕著

試薬受託サービス・・・前年並みで推移

動物用体外診断用医薬品・・・売上減

⇒下期に売上計上予定

(営業損益)

開発費が増加

⇒医薬品シーズの開発や体外診断用医薬品(体外診断用医薬品原料含む)の開発に注力

※なお、第3四半期以降の売上高につきましては、受託製品の販売や動物用体外診断用医薬品の販売並びに海外向け診断薬原料抗体の販売が大幅に増加することが予想されております。

【抗体関連事業】検査サービス

(売上高)

血中リポタンパク質プロファイリングサービス

「LipoSEARCH」に関連する取引が停滞・・・売上減

臨床検査サービスの拡充・・・売上増

(営業損益)

営業活動が制限・・・経費減

⇒国内外での学会展示、対面訪問など

※子会社スカイライト・バイオテックを当社が吸収合併

⇒2021年6月29日「完全子会社の吸収合併(簡易合併・略式合併)に関するお知らせ」参照

・両社の蓄積してきた技術力の相乗効果を期待

・品質の向上および人的、物的資源の効率化による経費の削減を期待

【抗体関連事業】 TGカイクサービス

(売上高)

受託の販売が減少

⇒研究開発に注力しているため、新たな受託開発を行っていない

【遺伝子組換えカイク開発事業】

(研究開発)

ひとつの繭から獲得できる抗体やタンパク質の収量を10倍程度向上させるための基礎研究に集中

⇒医薬品原料生産の可能性を大きく高める

注)限られた研究資金を有効的に使用

【化粧品関連事業】

(化粧品売上高)

国内展開・・・減少

⇒国内通信販売低調

欧州展開・・・増加

⇒オンライン販売が開始

中国展開・・・停滞

⇒コロナ禍における規制等が強化され、現地での状況確認が困難となっている

(化粧品原料売上高)

売上高は、僅少となっているが、商談は増加傾向
欧州での展開は、順調に進行中

【連結貸借対照表の概要】

単位：百万円		2022年3月期 第2四半期連結		
		構成%	前年度末 %	特記事項
流動資産	1,088	62.4	96.8	【主要な資産の前期末差】 ・現預金 Δ2 ・売掛債権 Δ82 ・投資有価証券 Δ57
(現預金)	(601)	(34.5)	(99.6)	
固定資産	656	37.6	92.1	
資産合計	1,745	100.0	95.0	【主要な負債の前期末差】 ・借入金 +132
流動負債	215	12.3	148.3	
固定負債	100	5.7	157.4	
(借入金 ※長短含)	(140)	(8.0)	(280.0)	
負債合計	315	18.1	151.1	
純資産合計	1,429	81.9	87.8	
負債純資産合計	1,745	100.0	95.0	

【連結キャッシュ・フロー】

単位:百万円	2022年3月期 第2四半期	主な要因
現金及び現金同等物の期末残高	546	前連結会計年度末と比べ 263百万円減少
営業活動による キャッシュ・フロー	△99	【増加要因】 売掛債権の減少(回収) 82百万円 持分法による投資損失 57百万円 【減少要因】 税金等調整前四半期純損失 195百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△39	関係会社貸付による支出 20百万円 貸付による支出 10百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	+132	短期借入金の純増 100百万円 長期借入金による収入 40百万円

■ 今後の展開

※今後の展開につきましては、2021年9月14日公表の
「事業計画及び成長可能性に関する説明」
をご参照ください。



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。